

## 平成28年度第2回村上市介護保険運営協議会 会議録

1. 開催日時：平成29年3月15日（水）午後1時30分～午後2時30分

2. 開催場所：村上市役所 第5会議室（5階）

3. 出席者：（敬称略）

【出席委員】佐藤 芳男、高原 繁、戸澤 和夫、田巻 清美、板垣眞由美、秋山 久子  
露崎かおり、高橋 茂、佐藤 良一、渡辺理恵子、佐藤 栄、山下ゆかり  
渡辺 道子、土岐 裕也、木村 直昭 15名

【欠席委員】佐藤 忠二、櫻井 信行、松本 豊、佐藤 清八、石栗 典子 5名

【事務局】介護高齢課 富樫課長、大滝課長補佐、志田課長補佐、田中センター長、田嶋係長  
小池係長、近藤係長 7名

### 4. 会議次第

1. 開 会

2. あいさつ 佐藤会長

3. 報 告

（1）地域密着型サービス等事業所について **資料1**、**資料1-1**（事務局：説明）

【質問・意見】

○委 員： 山形県のグループホームが指定更新を行い、入った方が1名いるということだが村上の方が入居したのか。また、県外の施設だが、こちらの地域の方を受け入れてくれるのか。

○事務局： 山北地区の方1名が入居した。受け入れについては、事業所の方で特に問題がなければ可能であるが、保険者への確認が必要である。

○委 員： 今年度は3回公募したのに、応募のなかった2事業所については、今後どうするのか。

○事務局： 第6期介護保険事業計画で整備する事業所であるため、再度公募するには日程的に厳しい。第7期介護保険事業計画を策定する中で改めて検討したい。

（2）平成29年度村上市介護保険特別会計について**資料2**（事務局：説明）

【質問・意見】 特になし。

（3）平成29年度村上市地域包括支援センター活動計画について**資料3**（事務局：説明）

【質問・意見】

○委 員： 小目標の①に、訪問・通所サービスの緩和した基準によるサービスの検討を行う、と説明されたが、緩和した基準とは何か。

○事務局： 現行相当のサービスは、利用者数とそこに関わる介助員数や時間単位が決められているが、それを若干緩やかにし、介助員数を多少減らし、時間を半日単位するなど利用者にとって利用し易い緩和としている。

○委 員： 生活支援体制整備事業の備考欄に地域支え合い推進員（SC）とあるが、どういう役割を担う人なのか。

○事務局： 名前は生活支援コーディネーターのことだが、生活支援コーディネーターと言っても、何をやる人なのか分かりにくいので、地域での支え合いのしくみづくりを

推進する人ということで、「地域支え合い推進員」を各地区に配置している。

○委員： 山北地区では20年前から新たな施設ができていない。特養ゆり花園で待機者が130名ほどいて、今年は約110名いると聞いている。

地区の民生委員からは、高齢者・特養の待機者が増えているのに新しい施設が整備されないので、特養に聞いたところ、「(増設も含めて)整備計画はない。人材がない。」と言っていた。

山北と言う地域性、立地条件から介護士がいっぱい不足している。

ケアマネさんが関係機関と連携して対処してくれている。

今後も一層連携を強化して対応していただきたい。

○委員： 山北地区は人口も少ないが、労働人口も少なく、働く人の確保が介護に限らず難しいという問題がある。地区の包括支援センターも事業の運営には苦勞している。

カフェなどの事業への参加者も増えていない。住民相互の助け合いがあるから何とかなっている。

○事務局： 山北地区は、特養が50人、老健100人、療養型30人の計180人の受け入れが可能である。人口規模からすると他の地区よりは充実していると思う。

ミニ特養を2回公募したにもかかわらず、応募がないこともあり、現在ある施設を有効活用することが大切だと思う。待機者は平成28年4月1日現在、388人であり、緊急性の高い人は107人である。特養には年間で120～130人が入所している。

人材確保対策については、市では予算措置して新規で市内の介護事業所に勤務する人に対する給付金や介護事業所には研修に係る経費を支援する取り組みを行っている。

○委員： 緊急性のある方120～130人と言う説明だが、特養はどこから入所する人が多いか。在宅の人が多いたとは思えない。よく調べてほしい。

#### 4. その他

平成29年度介護保険運営協議会の開催予定について資料4 (事務局：説明)

【質問・意見】 特になし

#### 5. 閉 会